



禪海和尚の人道力 全開

「人馬往来、命の為に30年掘った」大分・耶馬渓の青の洞門

こんにちは、こんばんは、おはようございます。心が風邪をひいたわたしも、まだひいていないあなたも、みんなが集えるミニコミ誌『みんつど』のお時間です。お久しぶりです、編集長の天地成行（てんち・なりゆき）です。みなさんお元気でしょうか？

北九州市のスマホカメラ担当のKさん。この間、山口県周南市にきてくれまして、久しぶりに旧交を温めました。彼とは1990年代に島根大学農学部地域開発科学科時代の同級生という間柄で、長い付き合いになります。お互いに人生の「苦味」「うま味」をあてにお酒を飲むことができとてもうれしかったです。

さて、そんな彼が大分県中津市の耶馬渓の写真を数枚おくってくれました。その中で、禪海和尚が享保の時代

人に馬の行き来が、岸壁の鉄の鎖で命を多く落としていた当地を訪れ、托鉢勧請しそのお金で石工を雇い、なんと三十年かけてノミと槌（つち）だけで洞門（トンネル）を掘ったのです。表紙はその写真。Kさんはいたく感じ入ったことでしょう。この写真での山国川はとても穏やかな表情をみせています。実はこの地は、徳山市立岐山小学校（当時：きさん、とよみます）6年2組の天地成行少年も修学旅行で訪問しました。思い出がよぎりました。ありがとうございますKさん。中津耶馬渓観光協会HP (<https://nakatsuyaba.com/pages/114/>)

さて、今回のみんつどは四ページだてでお届けします。一人三役脳内会話「天地成行あり方委員会」冊子を山口県障害者芸術文化祭に出品、母と息子の「8050クッキングなどをお届けします。それでははじめます。

一人三役脇内会誌「天地成行あり方委員会」冊子

山口県障害者芸術文化祭 文芸部門に出品しました

無量で旦頭が熱くなります。

「」『』から産まれた人気「」の、

山口県障害者芸術文化祭の芸術部門に出品しました。これにあたり左のように冊子にいたしました。制作にあたっては安溪遊地さん（山口県立大学名誉教授、生物文化多样性研究所）の多大なるご協力を賜りました。まことにありがとうございました。それから寄稿を下関市在住の塩見直紀さん（半農半X提唱者、総務省地域力創造アドバイザー）に書いていただきました。ありがとうございました。少し、Cさんが言いたいことがあるそうなのできいてみましょう。めんどうくさい」というかもしませんので適当に（笑）

天地成行ひよひしゃー、わこひの三周年
近くに及ぶ脳内鉛錆を申すじして、四〇
県障害者芸術文化祭に出したゞー、どく
ハレ。

天地成行B：はい。昨年統合失調症仲間と山口県庁で作品展を観に行って、事務局の方と話して「よかつたら来年作品を提出してください」と言われましたが、まさか本当に出品できるとは。安溪先生はじめ、みんなのみなさんのおかげですね。

天地成行A・Bさんのいう通りです。感

天地成行B：まあまあ、そんなこと言わ
ずいきましょう。プロジェクトの方が尊いで
はないですか。三人で打ち上げでいいで
はないでしょうか？

天地成行C・むむー
うこときこうか。

地成行A、B・おつ、ようやくさん
成長したかもー。（結果をお楽しみに）

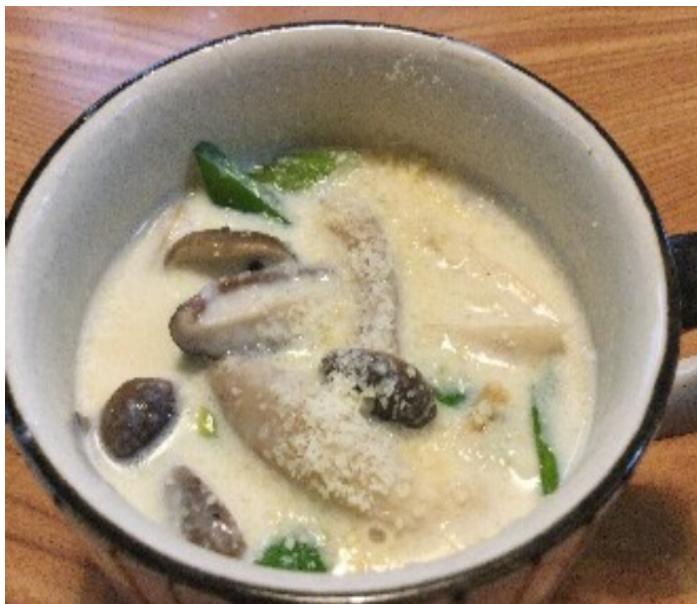


今回の一枚三枚腰内表紙「天黄成行あい古事日集」電子の
裏紙(上と裏紙の裏) (阿東つばめ唐風記事合ぬ)

阿寒つばめ農園からのお知らせ

母と娘の「8050キッチン」

noteで連載中です



みんつど
53号

お久しぶりでにみ(53)んなさい

原稿募集: tenchi2020@outlook.jp

【俳句甲子園にいってきました】

八月に松山市で開かれました。統合失調感情障



「そういえば
ふれてない
のも
つらい」

最優秀句。この句に、わたし・天地成行は、「う切り返します。季語とかまったく無視です。



三津浜港の正岡子規の句碑園と山頭火最後の庵・一草庵

害という、なかなか面倒くさい障がい特性で、当日早朝に「いくど」と決め、朝一で向かいました。フェリーで三津浜港へ。タクシー運転手や山頭火さんの終焉の一草庵とそこでの、道後温泉の人力車を引いておられる有名な、くるまや松五郎さんとの出会い、島根大時代の同級生の西村武司・愛媛大農学部准教授にランチをおこつていただいた、という流れでございました。

「天に地に鶴鵠の尾の触れずあり」

(学習院女子

高等科・本間
まどか)

【龍神様にふれたいと周南市八代の末武川上流調査へ】

周南市八代は冬に毎年ツルが本州で唯一飛来してきて越冬しますが、その地はまた下松市と周南市の境を流れる末武川の水源地でもあります。別名は荒神川。龍神様ともつながる川と仮説を立てた天地成行はこの夏に数編、龍神様に関するエッセイを書いたんです。

八代では、あるおばあちゃんの笑顔に惹かれました! 写真。わたしのおなかを「ぽこーん」と鳴らすと「まあ、いい音」とにこり。自分のお腹で笑つていただけてうれしい天地でした。



夏には首にキュウリでひんやり

ところからだと御縁を大切に、
天地成行でした(モデルは母)

です
(天地成行)

鶴鵠(セキレイ)の尾が天にも地にも触れていない。その浮遊感に、わたしは「ふれられないことのつらさ」を重ねました。語りとは、ふれること。だから、これからも天地成行は語るのです。

